

データ利活用型スマートシティ 京都モデル構築事業の概要

＜事業内容＞

京都府の主要な観光玄関口や交通結節点への次世代デジタルサイネージの設置や府管理公園へのスマートライトや環境センサー等の設置により、幅広い分野のビッグデータを収集するとともに、それらのデータを分析・活用するため、高度な技術や専門的知識を有する大学や研究機関、民間企業、観光連盟、DMO、行政等の多様なプレーヤーが参画する「京都ビックデータ活用プラットフォーム」を立ち上げ、京都の基幹産業である観光分野を基軸としたデータ利活用を促進し、『住んでよし、訪れてよし』の超快適スマート社会の創出を目指す。

▶ 「京都ビックデータ活用プラットフォーム」の概要

高度な技術や専門的知識を有する大学や研究機関、企業、観光連盟、DMO、行政等の多様なプレーヤーが参画する官民プラットフォームを構築し、オープン/クローズデータを収集・活用することで、ベンチャー企業等の新たなサービスやアライアンス創出の場を提供し、産業活性化を図る。

事業の概要図

